

優良農家の紹介

基本技術の遵守で酪農経営の改善

はじめに

南あわじ市の池尻泰治氏（35才）は文科系4年制大学を卒業後、地元の銀行に就職した。しかし、2000年6月に父が他界されたのをきっかけに脱サラ就農した。

池尻氏は就農当初から「乾物摂取量を増加させるための工夫」をしながら、牛の安楽性を考えた牛舎環境の改善に取り組んだ。

1 経営改善の取組概要

(1) 生産性向上の取組

暑熱対策

トンネル換気の効率を向上させるため、排気ファンを増設するとともに空気の流れを一定方向にするため設置位置を変更した。

牛舎改善

ウレタン製牛床マットの導入とステンレス板の飼槽の設置、ません棒位置の変更、ウォーターカップと給水管の交換による給水能力の向上に取り組んだ。

飼養管理改善

ボディコンディションスコアや血液検査結果を基にした飼料設計を行い、飼料給与内容と給与方法を改善した。



写真 安楽性を求めて牛舎を改造

(2) 乳質向上の取組

乳房炎防除

乳房炎牛の早期発見に心がけ、獣医師と連携し徹底した治療を実施した。

搾乳方法の改善

乳房炎の発生を減らすため、搾乳マニュアルにそった搾乳方法に改善した。

搾乳環境の改善

ミルカーの定期点検を実施するとともに省力化を目指して搾乳カートを整備した。

2 取組の成果

(1) 生産性の向上

乳量、繁殖成績ともに大きな改善効果が見られた。また、関節炎等の疾病も減り、平均産次数も伸びた。

(2) 乳質の向上

就農前の体細胞数は50万～100万であったが、徐々に減少して2005年には23万まで減少し、現在は10万程度で推移するようになっている。

今後の展開

基本技術を遵守していくことで、生産性と乳質向上を図ることができた。また、今後は、搾乳作業の省力化や乾乳施設の設置、更なるカウコンフォートの追求により、経営改善を図っていきたい。

河野 賢治（南淡路農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0799-42-0649）

表 経営改善の成果

項目	2001年	2005年
平均搾乳頭数	28頭	35頭
経産牛1頭当たり年間乳量	7,175kg	9,168kg
平均体細胞数	40万	23万
平均分娩間隔	433日	404日
平均産次数	2.6産	3.2産